

彙 報

彙 報 第 一

前会長 梅 田 博 之

日本学術会議第17期会員候補者・同推薦人等選出の選挙結果の報告

日本学術会議第17期会員候補者等選出のための委員による郵送投票を下記の通り行なった。

1997年1月10日 投票用紙発送

1997年1月27日 投票締切り

開票は下記の選挙管理委員会で行われた。

日 時：1997年2月1日（土）13：00～14：30

場 所：学士会館本館305号室

出席者：梅田博之（会長），坂本比奈子（事務局長），菊地康人，田村すず子

開票の結果は下記の通り。

1. 語学・文学研究連絡委員会に係わる会員候補者

投票数 32 うち有効投票 32

当選 松本 克己 4票

次点 徳川 宗賢 4票

（松本克己氏と徳川宗賢氏が同数のため抽選により松本氏が当選となった）

2. 東洋学研究連絡委員会に係わる会員候補者

投票数 32 うち有効投票 32

当選 梅田 博之 9票

次点 ①徳川 宗賢 3票

②西田 龍雄 3票

（徳川宗賢氏と西田龍雄氏が同数のため抽選により上記の順になった）

3. 語学・文学研究連絡委員会に係わる推薦人・推薦人予備者

投票数 32 うち有効投票 32

1位 小泉 保 3票

当選 宮岡 伯人 3票 (推薦人)

(小泉 保氏と宮岡伯人氏が同数のため抽選により小泉氏が1位となったが、小泉氏は同じ研究連絡委員会に係わる他学会の会員候補であるため規定により辞退し、宮岡氏が当選となった)

次点 ①上野 善道 2票 (推薦人予備者)

②角田 太作 2票

③松本 克己 2票

④井上 史雄 2票

⑤崎山 理 2票

(上記5氏が同数のため抽選により上記の順となり上野氏が推薦人予備者となった)

4. 東洋学研究連絡委員会に係わる推薦人・推薦人予備者

投票数 32 うち有効投票 31

白票 1

当選 庄垣内正弘 4票 (推薦人)

次点 ①大江 孝男 2票 (推薦予備者)

②崎山 理 2票

③藤本 幸夫 2票

④坂本比奈子 2票

⑤土田 滋 2票

(上記5氏が同数のため抽選により上記の順になり大江氏が推薦人予備者となった)

日本言語学会平成9～11年度役員選挙の結果について

平成9～11年度役員(会長, 編集委員長, 会計監査委員, 委員)の選挙を, 会則・選挙規則および選挙細則に基づいて, 以下の日程で行なった。

投票用紙・選挙人名簿等発送 1997年1月24日

投票締切 1997年2月14日（消印有効）

開 票 於下記選挙管理委員会

日 時 1997年2月22日

場 所 麗澤大学東京研究センター

出席者 梅田博之（会長），坂本比奈子（事務局長），井上史雄，

菊地康人，田村すず子，松本克己，村崎恭子

開票の結果は下記の通り。

投票総数	240	うち有効投票数	238
		無効	2

1. 会長選挙

投票数	234	うち有効投票	227
		白票	6
		無効（白票を除く）	1

当 選	柴谷 方良	80票
次 点	宮岡 伯人	20票
次次点	徳川 宗賢	18票

2. 編集委員長選挙

投票数	234	うち有効投票	224
		白票	8
		無効（白票を除く）	2

当 選	庄垣内正弘	25票
次 点	井出 祥子	17票
次次点	影山 太郎	10票

3. 会計監査委員選挙

投票数	442	うち有効投票	393
	(221×2)	白票	36
		無効（白票を除く）	13

当 選	角田 太作	23票
-----	-------	-----

当 選	湯川 恭敏	18票
次 点	庄垣内正弘	14票
次 点	宮岡 伯人	14票
次次点	荻野 綱男	13票

4. 委員選挙

選挙細則に基づき、当選者名のみを各地区別に五十音順に掲げる。

[北 海 道] (2名): 池上二良, 津曲敏郎

[東 北] (3名): 加藤正信, 中村 捷, 福地 肇

[関 東] (29名): 井出祥子, 井上和子, 井上史雄, 上野善道, 大津由紀夫, 荻野綱男, 尾上圭介, 風間喜代三, 梶 茂樹, 菊地康人, 国広哲弥, 坂本比奈子, 柴田 武, 下宮忠雄, 城生佰太郎, 杉戸清樹, 高見健一, 田中克彦, 田村すず子, 千野栄一, 土田 滋, 徳川宗賢, 長嶋善郎, 林 徹, 早田輝洋, 原口庄輔, 松村一登, 松本克己, 南不二男

[中 部] (9名): 小泉 保, 沢木幹栄, 澤田治美, 清水克正, 拓植洋一, 徳井厚子, 原田かづ子, 藤本幸夫, 油谷幸利

[近 畿] (17名): 笈 壽雄, 影山太郎, 金水 敏, 窪園晴夫, 近藤達夫, 崎山 理, 佐藤昭裕, 真田信治, 庄垣内正弘, 西田龍雄, 西光義弘, 仁田義雄, 宮岡伯人, 藪 司郎, 山梨正明, 吉田和彦, 吉田 豊

[中国・四国] (5名): 岩倉国浩, 竹内和夫, 辻 星児, 樋口康一, 平野尊識

[九州・沖縄] (4名): 上村幸雄, 久保智之, 坂本 勉, 田窪行則

以上69名

なお、柴谷方良(近畿), 角田太作, 湯川恭敏(関東)の三氏は、委員当選に足る票数を得たが、それぞれ会長あるいは会計監査委員に就任のため、兼任禁止規定により、委員とはならない。これに伴い当該地区で繰り上げ当選が生じた。また、関東地区で辞退者が一名あったが、選挙規則により補充しない。

彙 報 第 二

会 長 柴 谷 方 良

平成9年度第1回常任委員会

日 時：平成9年4月13日（日）午前10時～午後5時

場 所：神戸大学文学部会議室

出席者：柴谷方良（会長）、窪園晴夫（事務局長）、井出祥子、影山太郎、田窪
行則、長嶋善郎、西光義弘、原田かつ子、吉田和彦

オブザーバー：庄垣内正弘（編集委員長）、徳川宗賢（第114回大会運営委員
長）、宮岡伯人（第115回大会運営委員長）、藤井義久（事務局長補佐）、
松瀬育子（事務局長補佐）

議事と報告

- (1) 平成8年度決算について
決算報告・監査報告があった。
- (2) 平成9年度予算について
予算案を審議し、具体案を作成した。収入については、(a) 会員を増やす努力をする、(b) 大会の予稿集の売り上げを大会収入とし他の雑収入と分ける、以上の2点を確認した。また支出については、(a) 名簿作成費として50万円ずつ3年間積み立てる、(b) 住所不明会員の追跡調査を止めることで選挙関係費を削減する、以上の2点を確認した。
- (3) 第114回大会（平成9年度春季大会）について講演者、研究発表者などの大会の詳細を決め、プログラムを決定した。研究発表については、応募総数50件から45件を採択した。
- (4) 第115回大会（平成9年度秋季大会）について京都大学で10月11日（土）、12日（日）の両日に、宮岡伯人氏を大会運営委員長として開催することに決定した。詳細は、秋の常任委員会で決定する。
- (5) 作業部会について

学会内外の諸問題を検討するために常任委員会内に次の3つの作業部会を設けることを決定した。

- ・大会関係部会（影山太郎（座長），窪園晴夫，吉田和彦）
- ・国際関係部会（井出祥子（座長），田窪行則，長嶋善郎，原田かづ子）
- ・夏期講習会部会（西光義弘（座長），田窪行則，原田かづ子）

平成9年度第2回常任委員会

日 時：平成9年6月13日（金）午後6時～9時頃

場 所：学習院大学文学部言語共同研究所

出席者：柴谷方良（会長），窪園晴夫（事務局長），井出祥子，影山太郎，長嶋善郎，西光義弘，原田かづ子，吉田和彦

議事と報告

各作業部会における検討課題及び活動方針について議論した。

- ・大会関係部会（座長：影山太郎）
- ・国際関係部会（座長：井出祥子）
- ・夏期講習会部会（座長：西光義弘）

平成9年度第1回委員会

日 時：平成9年6月14日（土）午前10時～13時

場 所：学習院大学 学習院創立百周年記念館4階第4会議室

出席者：柴谷方良（会長），窪園晴夫（事務局長），池上二良，井出祥子，上村幸雄，上野善道，荻野綱男，尾上圭介，笈 壽雄，影山太郎，梶 茂樹，加藤正信，菊地康人，金水 敏，久保智之，小泉 保，坂本 勉，坂本比奈子，崎山 理，佐藤昭裕，沢木幹栄，清水克正，下宮忠雄，城生恒太郎，庄垣内正弘，杉戸清樹，田窪行則，竹内和夫，田村すず子，柘植洋一，辻 星児，津曲敏郎，徳井厚子，徳川宗賢，長嶋善郎，西光義弘，仁田義雄，早田輝洋，原口庄輔，原田かづ子，樋口康一，平野尊識，松村一登，松本克己，宮岡伯人，薮 司郎，吉田和彦，吉田 豊（以上48名）

委任状：16名

オブザーバー：角田太作（会計監査委員），湯川恭敏（会計監査委員），奈良毅（小委員会委員長），梅田博之（前会長），藤井義久（事務局長補佐），松瀬育子（事務局長補佐）

*委員の定員は70名であるが，辞退者が1名出たため，現在69名である。

報告事項

議事に先立ち会長の挨拶と会長による新執行部及び役員の紹介があった。委員については自己紹介の形をとった。

- (1) 会長から平成9年度第1回および第2回常任委員会についての報告があった。
- (2) 第114回大会（平成9年度春季大会）については，常任委員会で研究発表の採否を決定し，応募者の数に合わせ5会場で行うことになったことが報告された。
- (3) 第115回大会（平成9年度秋季大会）については，京都大学で10月11日（土）・12日（日）の両日に行われることになった。大会運営委員長は宮岡伯人氏。
- (4) 人事院採択要望書の提出の件。今までは，人文系の教官の出向期間は退職金の対象となる適正な期間とみなされていなかったことについて，適正なものとするよう人事院に要望書を提出した。
- (5) 日本学術会議会員の件。日本学術会議の語学・文学部門，東洋学部門ともに，学会からの被推薦者は選出されなかった。元会員の諸氏に相談の上，今後も努力することを確認した。
- (6) 消滅の危機に瀕した言語小委員会の件。平成9年度予算で同小委員会のための予算を委員会費内に組んだ。委員長は今年度をもって土田滋氏から奈良毅氏に交替した。今後，常任委員会で適切な予算化の方向で検討することを確認した。

審議事項

- (1) 平成8年度の決算報告があり，質疑の上，了承された。これは1997年4月8日，会計監査委員近藤達夫・柴谷方良両氏により，適正であると認

められたものである（別表1参照）。

- (2) 平成9年度予算を決定した（別表2参照）。
- (3) 選挙管理委員会委員の選出を行い、寛 寿雄，影山太郎，金水 敏，近藤達夫，崎山 理，真田信治，吉田和彦，吉田 豊の各氏（計8名）を選出し，また次点として森本順子氏を選出した。
- (4) 第16回国際言語学者会議代表の件。下宮忠雄氏に学会の代表として参加してもらい，引き続き任期5年でCIPLとの連絡役を引き受けてもらうことを決定した。
- (5) 『言語研究』彙報欄の件。『言語研究』の彙報欄に掲載される研究発表要旨が予稿集と重複する問題を審議した。第114回大会（平成9年度春季大会）では実行不可能であるが，第115回大会（平成9年度秋季大会）からは，研究発表要旨を現行の400字詰原稿用紙2枚分を1枚分の分量とすることで合意した。
- (6) その他
 - (A) 小委員会の件。「消滅の危機に瀕した言語小委員会」の奈良毅委員長より，委員会の現状と課題，今後の活動計画について報告がなされた。
 - (B) 作業部会の件。日本言語学会の一層の活性化のために，以下の作業部会を常任委員会の下に設けたことが会長より報告され，各作業部会における検討事項について座長より報告があった。
 - (a) 大会関係部会（影山太郎：座長，窪園晴夫，吉田和彦）
 - ・研究発表の内容向上の件：研究発表の数を適正に保ち，内容水準の向上をはかる。
 - ・研究発表の応募締め切りの件：現行の秋季大会の研究発表の応募締め切りは8月31日であるが，審査に時間がかかるため，現行の締め切りを7月31日にするか，秋季大会を11月初旬にする可能性を探る。この点について当面は，秋季大会の開催時を11月初旬にずらす方向で検討する。
 - ・学会プログラムの配列の件：プログラムを変え，1日目に講演だけでなく研究発表も加える可能性を探る。

- (b) 国際関係部会（井出祥子：座長，田窪行則，長嶋善郎，原田かつ子）
- ・国際化の件：海外に在住する会員および日本に在住する外国人会員のためのサービス向上に努める；「言語研究」を海外の大学および諸機関に送付する；海外の著名な言語学者を名誉会員とすることの可能性を探る。
 - ・「消滅の危機に瀕した言語小委員会」の件：同小委員会の支援をする。
 - ・第12回応用言語学会世界大会の件：1999年早稲田大学で開催される同大会に協賛する。日本言語学会としてシンポジウム等の企画を図るかどうか検討する。
 - ・Pacific Rim Linguistics Institute の件：2001年に米国サンタバーバラでアメリカ言語学会・日本言語学会・韓国言語学会・オーストラリア言語学会が共催する Pacific Rim Linguistics Institute への貢献のあり方について検討する。
- (c) 夏期講習会部会（西光義弘：座長，田窪行則，原田かつ子）
- ・夏期講習会の件：学会全体の水準向上および少数派言語の後継者育成の一環として夏季講習会を行う可能性を検討する。集中講義の形態で行い，学生の単位取得の可能性も探る。

〔別表1〕 平成8年度 日本言語学会決算

自 平成8年4月 至 平成9年3月

(単位 円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	13,284,000	刊 行 費	5,956,850
雑 誌 売 上	908,000	発 送 費	414,430
文 部 省 補 助 金	600,000	編 集 費	429,860
預 金 金 利	26,923	事 務 委 託 費	3,502,000
大 会 関 係 収 入	1,159,000	大 会 関 係 費	2,266,420
雑 収 入	357,173	委 員 会 費	178,894
積立からの繰入金	2,000,000	常任委員会費	195,813
		C I P L 負 担 金	100,000
		選 挙 関 係 費	511,185
		名 簿 作 成 費	2,415,440
		通 信 費	322,542
		事 務 局 費	459,540
		消 耗 品 費	299,973
		予 備 費	0
		雑 費	11,515
		積 立 金	2,200,000
収 入 合 計	18,335,096	支 出 合 計	19,264,462
前 期 繰 越	4,813,496	次 期 繰 越	3,884,130
計	23,148,592	計	23,148,592

◇収入内訳(単位 円)

会費

国内個人会員会費	11,906,000
国内団体会員会費	938,000
国内維持会員会費	80,000
国内賛助会員会費	30,000
在外個人会員会費	296,000
在外団体会員会費	34,000
合 計	13,284,000

大会関係収入

112回大会出店料	50,000
113回大会出店料	20,000
111回大会予稿集売上	2,000
112回大会予稿集売上	618,000
113回大会予稿集売上	434,000
112回大会予稿集超過頁代	15,000
113回大会予稿集超過頁代	20,000
合 計	1,159,000

雑収入

109号抜刷増刷代	25,425
110号抜刷増刷代	29,748
換金手数料	2,000
会員名簿広告代	300,000
合 計	357,173

*学会会員名簿代は雑誌売上に含む

◇支出内訳 (単位 円)

刊行費

	110号 (282p.)	111号 (216p.)	計 (498p.)
印刷費	3,412,596	2,544,254	5,956,850

*割付・校正料は印刷費に含む

*110号より150部増刷 (計 印刷部数 各号とも2250部)

発送費 「言語研究」刊行時の一斉発送料 (追加送料は含まない)

編集費

編集通信費	16,228
編集旅費・会議費	198,832
編集アルバイト費	214,800

計	429,860
---	---------

事務委託費

中西印刷株式会社と交わした事務委託内容の覚書に基づく業務の代金

大会関係費

	第112回大会	第113回大会	計
プログラム版下作成費	77,250	77,250	154,500
プログラム印刷代	39,655	39,655	79,310
出欠葉書印刷費	28,325	28,325	56,650
プログラム発送費	167,490	186,750	354,240
大会費	340,000	330,000	670,000
予稿集印刷費	463,500	488,220	951,720

計	1,116,220	1,150,200	2,266,420
---	-----------	-----------	-----------

消耗品費

文具費	24,963
事務用封筒, 振替用紙	165,830
発送用封筒	77,250
名簿発送封筒	31,930

計 299,973

〔別表2〕 平成9年度 日本言語学会予算

自 平成9年4月 至 平成10年3月

(単位 円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会費	13,000,000	刊行費	6,700,000
雑誌売上	900,000	発送費	450,000
文部省補助金	600,000	編集費	600,000
預金金利	25,000	事務委託費	3,600,000
大会関係収入	1,000,000	大会関係費	2,300,000
雑収入	50,000	委員会費	300,000
		常任委員会費	400,000
		C I P L負担金	100,000
		選挙関係費積立金	300,000
		名簿作成費積立金	500,000
		通信費	350,000
		事務局費	400,000
		消耗品費	400,000
		予備費	800,000
収入合計	15,575,000	雑費	59,130
前期繰越	3,884,130	積立金	2,200,000
計	19,459,130	計	19,459,130

第114回大会

期 日 1997年6月14日(土)～15日(日)

会 場 学習院大学

第1日(6月14日)

講演会 午後1時30分～5時

開会の辞

開催校挨拶

会長就任講演 言語の機能と構造と類型

柴谷方良

公開講演 'More than Handwaving: The Mutual
Contributions of Sign Language and
Linguistic Theory'

Susan Fischer

会員懇親会 午後5時30分～7時30分

第2日(6月15日)

研究発表 午前10時～12時20分

◦A 会場

司会 菊地 康人

(A 1) 10:00～ 「は」と「が」の意味と認知様式について 竹林一志

(A 2) 10:30～ 日本語分類辞「一ホン(本)」の用法 飯田朝子
—細長いから「本」なのか、「本」だから
細長いのか—

司会 金水 敏

(A 3) 11:20～ 現代日本語動詞の連用形とテ形の談話機能の
違い 北上光志

(A 4) 11:50～ 後方照応のゼロ代名詞 秋月高太郎

◦B 会場

司会 原口 庄輔

(B 1) 10:00～ Scopal Interaction and No Movement for
Case-checking in Japanese 上田由紀子

(B 2) 10:30～ 日本語における2種類の主要部内在型関係節 外崎淑子

司会 長谷川信子

(B 3) 11:20~ 限量化と最小連結条件 木村 宣美

(B 4) 11:50~ Question Marker Drop in Japanese 吉田 恵以子
吉田 智行

◦C 会場

司会 平野 尊識

(C 1) 10:00~ 台湾語における人称代名詞複数形を用いた 多田 恵
所有形式

(C 2) 10:30~ ブヌン語 (南部方言) における否定文の 野島 本泰
統語構造

司会 吉田 豊

(C 3) 11:20~ 古期ヒッタイト語の分詞について 佐久間 保彦

(C 4) 11:50~ ギリシア語の名詞にみられる母音交替に 児玉 茂昭
ついて

◦D 会場

司会 久保 智之

(D 1) 10:00~ 満州語文語の母音調和における変異例に 山崎 雅人
ついて

(D 2) 10:30~ 日本語の (暦の) 月の名称の起源 藤原 明

司会 樋口康一

(D 3) 11:20~ アムハラ語の継起形について 若狭 基道

(D 4) 11:50~ 古典シリア語における対格マーカーとして 楡崎 勝則
の I-(lāmad) の出現条件について

◦E 会場

司会 油谷 幸利

(E 1) 10:00~ 韓国語の母音対立の機能負担量と音韻変化 陳 南澤
—母音 /e/ と /ɛ/ の融合を中心として—

(E 2) 10:30~ 朝鮮語慶尚道方言のアクセント体系化 曹 廷換

司会 坂本 勉

(E 3) 11:20~ Stuttering and Discourse Characteristics

Charlie Watanabe

(E 4) 11:50~ 第一言語習得と通時的言語変化の共通性 大沢 ふよう

会員総会 午後1時10分~1時40分

研究発表 午後1時40分~4時30分

◦A 会場

司会 村崎 恭子

(A 5) 1:40~ 日本語の動詞の派生に於ける形態と意味
との有契約関係 萩原 幸司(A 6) 2:10~ 日本語「V一てあげる」構文と英語二重
目的語構文の対照比較 清水 啓子

(A 7) 2:40~ 日本語の名詞群省略の比較 塚田 浩恭

司会 木村 英樹

(A 8) 3:30~ 日本語・朝鮮語・マラティ語・ネワール語
の移動表現の類型 松瀬 育子

(A 9) 4:00~ 現代中国語の受動表現 陳 曉程

◦B 会場

司会 阿部 泰明

(B 5) 1:40~ 格交替と属性理論：
可能構文を中心とするケース・スタディ 中村 裕昭
藤田 健
橋本 喜代太(B 6) 2:10~ [名詞+ (を) +する] の文構造に関する
一考察 野口 潔

(B 7) 2:40~ 日本語の擬似間接受身文について 平田 一郎

司会 高見 健一

(B 8) 3:30~ Backward Binding with Psychological
Predicates 松原 史典(B 9) 4:00~ A Lexical Approach to "Possessor
Raising" Constructions in Korean 中村 渉

◦C 会場

司会 崎山 理

- (C 5) 1:40~ インドネシア語と日本語の関係節構造について 本田 謙介
- (C 6) 2:10~ インドネシア語の動詞 *dilihatnya* (見る, 見える, 見られる) の談話的機能 安田 和彦
- (C 7) 2:40~ スンバワ語 (インドネシア地方語) の他動詞文の態について 塩原 朝子

司会 早田 輝洋

- (C 8) 3:30~ ウォロフ語の母音, その言語学のおよび歴史社会心理学的考察 梶 茂樹
- (C 9) 4:00~ クワニャマ語名詞のアクセントについて 湯川 恭敏

◦D 会場

司会 角田 太作

- (D 5) 1:40~ 海岸ツィムシアン語の複数形について 笹間 史子
- (D 6) 1:10~ カバンバンガン語 (フィリピン) の品詞の区別 北野 浩章
- (D 7) 2:40~ オリヤ語の関係代名詞と疑問代名詞の意味 山部 順治
- 司会 田村すず子
- (D 8) 3:30~ バスク語アスペイティア方言の助動詞 *du/ditu* による『非人称』について 吉田 浩美
- (D 9) 4:00~ ハンガリー語の使役構文の分析とその文法関係について 野瀬 昌彦

◦E 会場

司会 荻野 綱男

- (E 5) 1:40~ Linguistic Ideology, Social Context and the Choice of 'Indexicalities' in a Japanese Family Drama 徳地 慎二
- (E 6) 2:10~ 日本のテレビ討論にみられる論争の分析 本田 厚子

—儀礼拘束としての緩和マーカー—

- (E 7) 2:40~ Tense Choice and the Speaker's Attitude 中安 美奈子
in Reporting
司会 清水 克正
- (E 8) 3:30~ ポルトガル語の *saber* と *conhecer* の 大方グレイス利江
意味について
- (E 9) 4:00~ 事象関連電位を用いたモーラの脳内認知に 城生 佰太郎
関する実験研究

◇ 本学会評議員 金田一春彦氏は、平成9年度の文化功労者として顕彰されました。本学会として、心よりお祝い申し上げます。

◇ 本誌は、文部省平成9年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付を得て刊行されたものである。